

## 履修方法について (博士後期課程)

### 仏教学専攻(博士後期課程)の履修について

#### 授業の履修方法について

博士後期課程の授業は、スクーリング履修(面接授業)とメディア履修(メディアを利用して行なう授業。E-mail等の情報通信技術を利用して授業・論文指導を展開する)を併用する授業で、これを「スクーリング・メディア履修(SI履修)」と称します。履修方法は、スクーリング(1コマ90分の授業(面接指導)を6コマ)の受講と、年2回開催する論文中間発表会への出席と最低1回の研究発表が必要となります。そして各在学年の1月末までに「研究報告論文」(400字詰原稿用紙100枚程度)を提出し、この成果により評価されます。

補足:パソコン端末やインターネット接続環境がない場合、メディアを利用して行なう授業については、手紙等、郵便による指導を受けることで代えることができます。なお、事務局内にパソコンの購入から操作にいたる相談等に応じるヘルプデスクを開設していますので、E-mail等の情報通信技術を活用した履修を一考してみてください。

#### 授業科目の履修について

必修科目「仏教学研究指導演習Ⅰ」・「仏教学研究指導演習Ⅱ」・「仏教学研究指導演習Ⅲ」の3科目6単位を履修する。1年次に「仏教学研究指導演習Ⅰ」、2年次に「仏教学研究指導演習Ⅱ」、3年次に「仏教学研究指導演習Ⅲ」と3年間にわたり段階的に履修しなければなりません。

#### 「博士の学位請求論文」の作成について

「博士の学位請求論文」の枚数は、300枚程度(400字詰原稿用紙)を、3年間で作成することを基本としています。以下に年次別のスケジュールを記します。なお、3年間で「博士の学位請求論文」を作成することが諸事情で困難な場合、在学は最長6年間(休学を含まず)可能ですので、各自のおかれている状況に応じて、この期間で「博士の学位請求論文」の作成計画を立てることも必要になります。

#### ●1年次

- (1) 修士課程で習得した学識と成果をもとに、各自が研究テーマを設定して「研究計画書(案)」を作成し、所定の時期(入学手続時に指示)に事務局に提出します。
- (2) 提出された「研究計画書(案)」に基づき指導教員が決定します。
- (3) 「仏教学研究指導演習Ⅰ」のスクーリング(1コマ90分)を受講し、指導教員の面接指導を受けて、より確かな「研究計画書」を策定します。以降、この計画書に基づいてスクーリング(1コマ90分)を12月までに合計6コマ受講し、指導教員の研究指導を受けます。
- (4) 論文中間発表会が開催されます(年2回)。指導教員の指導を受けて、2回とも出席し、最低1回、研究成果の発表を行います。この発表会には、指導を担当する教員全員と博士後期課程に在籍する通学課程、通信教育課程の院生全員が出席し、相互に質疑応答を行ないます。この場で得た批評を再考し、さらなる研究を展開します。
- (5) 1月末までに、1年間の研究成果を「研究報告論文」(400字詰原稿用紙100枚程度)にまとめ、事務局に提出します。
- (6) 合計6回の「仏教学研究指導演習Ⅰ」のスクーリング(1コマ90分)の受講と「研究報告論文」により「仏教学研究指導演習Ⅰ」の成績評価が行なわれ、合格すれば2単位を得ることができ、2年次の「仏教学研究指導演習Ⅱ」の履修に進むことができます。もしも不合格であった場合、2年次に「仏教学研究指導演習Ⅰ」を再履修することになり、1年間の在学延長が確定します。

#### ●2年次

- (1) 1年次に提出した「研究報告論文」をもとに、より新しい考え方やより高度で深慮に富む学識の習得を目指し、引き続き研究指導を受けます。
- (2) 研究の進展に応じて、「仏教学研究指導演習Ⅱ」のスクーリング(1コマ90分)を12月までに合計6コマ受講し、指導教員の面接指導を受けます。以降、指導に基づき研究を進めます。
- (3) 論文中間発表会が開催されます(年2回)。1年次と同様に、指導教員の指導を受けて、2回とも出席し、最低1回、研究成果の発表を行ないます。そして発表会で得た批評を再考し、さらなる研究を展開します。
- (4) 1月末までに、2年次の研究成果を「研究報告論文」(400字詰原稿用紙100枚程度)にまとめ、事務局に提出します。
- (5) 合計6回の「仏教学研究指導演習Ⅱ」のスクーリング(1コマ90分)の受講と「研究報告論文」により「仏教学研究指導演習Ⅱ」の成績評価が行なわれ、合格すれば2単位を得ることができ、3年次の「仏教学研究指導演習Ⅲ」の履修に進むことができます。もしも不合格であった場合、3年次に「仏教学研究指導演習Ⅱ」を再履修することになり、1年間の在学延長が確定します。

#### ●3年次

- (1) 1年次および2年次に提出した「研究報告論文」をもとに、引き続き研究指導を受けます。
- (2) 研究の進展に応じて、「仏教学研究指導演習Ⅲ」のスクーリング(1コマ90分)を合計6コマ受講し、指導教員の面接指導を受けます。以降、11月末までに「博士の学位請求論文」(400字詰原稿用紙300枚程度)の提出を目指して、研究を進展させます。
- (3) 論文中間発表会が開催されます(年2回)。9月には、指導教員の指導を受けて研究成果の発表を行ないます。そして発表会で得た批評を再考し、「博士の学位請求論文」として仕上げていきます。
- (4) 指導教員の承認を得て、11月末までに、「博士の学位請求論文」を事務局に提出し、審査を受けます。
- (5) 2月に審査員3名(主査1名・副査2名)の口頭試問による最終審査を受けます。
- (6) 審査員の論文審査の結果報告に基づき、研究科教授会で「博士の学位」授与の可否が審議、判定されます。その結果「可」と判定されれば、課程修了することができます。なお、同時に「仏教学研究指導演習Ⅲ」も合格となり2単位を修得することができます。「否」と判定された場合は、その判定内容をもとに、指導教員のさらなる指導を受けて研究を再開し、翌年度以降「博士の学位請求論文」を再提出し、課程修了を目指すことになります。

#### ●補足

規定のスクーリング(面接指導)以外に、随時、面接指導やE-mail等を利用した指導を受けることができます。

入学から修了までの基本スケジュール

	学生[授業科目の履修]	学生[博士論文の作成]	指導教員
1年次	●指導教員担当の「研究指導演習Ⅰ」1科目を履修 5月～12月にスクーリングを受講(計6回)	●3月「研究計画書(案)」提出 ●6月「研究計画書」提出 ●7月～9月 論文中間発表会 ●11月～12月 論文中間発表会 ●1月「研究報告論文」提出	●研究指導教員の決定 ●研究計画の立案指導 ●研究計画の了承 ●研究、論文作成指導 ●随時、メディア等を利用して論文作成指導 ●次年度研究計画の指導
2年次	●指導教員担当の「研究指導演習Ⅱ」1科目を履修 12月までにスクーリングを受講(計6回)	●7月～9月 論文中間発表会 ●学会で口頭発表 ●11月 学術雑誌への投稿 ●11月～12月 論文中間発表会 ●1月「研究報告論文」提出	●学会で口頭発表を指導 ●学術雑誌(学会誌を含む)への投稿を指導 ●次年度研究計画の指導 ●博士論文の概要了承
3年次	●指導教員担当の「研究指導演習Ⅲ」1科目を履修 「博士論文」提出までにスクーリングを受講(計6回)	●博士論文作成 ●7月～9月 論文中間発表会 ●11月「博士の学位請求論文」(400字×300枚程度)提出	●学内外の研究発表の評価および批判に基づき、研究指導 ●「博士の学位請求論文」提出了承 ●研究科教授会に審査請求

※上記のスケジュールは基本モデルです。特に2年次においては、学外学会での口頭発表や学術雑誌(学会誌を含む)への投稿等、指導教員の指導を受けつつ積極的な取り組みが望まれます。

(補足)○「博士の学位請求論文」の受理を研究科教授会で決定し、その後、審査員(3名)により審査が開始されます。

○2月中旬頃に口頭試問等による最終審査を実施した後、研究科教授会で、審査員の論文審査報告の内容を審議し、「博士の学位」授与の可否を判定します。

歴史学専攻(博士後期課程)の履修について

授業の履修方法について

博士後期課程の授業は、スクーリング履修(面接授業)とメディア履修(メディアを利用して行なう授業。E-mail等の情報通信技術を利用して授業・論文指導を展開する)を併用する授業で、これを「スクーリング・メディア履修(SI履修)」と称します。履修方法は、スクーリング(1コマ90分の授業(面接指導)を6コマ)の受講と、年2回開催する論文中間発表会への出席と最低1回の研究発表が必要となります。そして各在学年の1月末までに「研究報告論文」(400字詰原稿用紙100枚程度)を提出し、この成果により評価されます。

補足:パソコン端末やインターネット接続環境がない場合、メディアを利用して行なう授業については、手紙等、郵便による指導を受けることで代えることができます。なお、事務局内にパソコンの購入から操作にいたる相談等に応じるヘルプデスクを開設していますので、E-mail等の情報通信技術を活用した履修を一考してみてください。

授業科目の履修について

必修科目「歴史学研究指導演習Ⅰ」・「歴史学研究指導演習Ⅱ」・「歴史学研究指導演習Ⅲ」の3科目6単位を履修する。

1年次に「歴史学研究指導演習Ⅰ」、2年次に「歴史学研究指導演習Ⅱ」、3年次に「歴史学研究指導演習Ⅲ」と3年間にわたり段階的に履修しなければなりません。

「博士の学位請求論文」の作成について

「博士の学位請求論文」の枚数は、250枚程度(400字詰原稿用紙)を、3年間で作成することを基本としています。以下に年次別のスケジュールを記します。なお、3年間で「博士の学位請求論文」を作成することは諸事情で困難であるとお考えになる場合、在学は最長6年間(休学を含まず)可能ですので、各自のおかれている状況に応じて、この期間で「博士の学位請求論文」の作成計画を立てることも必要になります。

●1年次

- (1) 修士課程で習得した学識と成果をもとに、各自が研究テーマを設定して「研究計画書(案)」を作成し、所定の時期(入学手続時に指示)に事務局に提出します。
- (2) 提出された「研究計画書(案)」に基づき指導教員が決定します。
- (3) 「歴史学研究指導演習Ⅰ」のスクーリング(1コマ90分)を受講し、指導教員の面接指導を受けて、より確かな「研究計画書」を策定します。以降、この計画書に基づいてスクーリング(1コマ90分)を12月までに合計6コマ受講し、指導教員の研究指導を受けます。
- (4) 論文中間発表会が開催されます(年2回)。指導教員の指導を受けて、2回とも出席し、最低1回、研究成果の発表を行います。この発表会には、指導を担当する教員全員と博士後期課程に在籍する通学課程、通信教育課程の院生全員が出席し、相互に質疑応答を行います。この場で得た批評を再考し、さらなる研究を展開します。
- (5) 1月末までに、1年間の研究成果を「研究報告論文」(400字詰原稿用紙100枚程度)にまとめ、事務局に提出します。
- (6) 合計6回の「歴史学研究指導演習Ⅰ」のスクーリング(1コマ90分)の受講と「研究報告論文」により「歴史学研究指導演習Ⅰ」の成績評価が行なわれ、合格すれば2単位を得ることができ、2年次の「歴史学研究指導演習Ⅱ」の履修に進むことができます。もしも不合格であった場合、2年次に「歴史学研究指導演習Ⅰ」を再履修することになり、1年間の在学延長が確定します。

●2年次

- (1) 1年次に提出した「研究報告論文」をもとに、より新しい考え方やより高度で深慮に富む学識の習得を目指し、引き続き研究指導を受けます。
- (2) 研究の進展に応じて、「歴史学研究指導演習Ⅱ」のスクーリング(1コマ90分)を12月までに合計6コマ受講し、指導教員の面接指導を受けます。以降、指導に基づき研究を進めます。
- (3) 論文中間発表会が開催されます(年2回)。1年次と同様に、指導教員の指導を受けて、2回とも出席し、最低1回、研究成果の発表を行ないます。そして発表会で得た批評を再考し、さらなる研究を展開します。
- (4) 1月末までに、2年次の研究成果を「研究報告論文」(400字詰原稿用紙100枚程度)にまとめ、事務局に提出します。
- (5) 合計6回の「歴史学研究指導演習Ⅱ」のスクーリング(1コマ90分)の受講と「研究報告論文」により「歴史学研究指導演習Ⅱ」の成績評価が行なわれ、合格すれば2単位を得ることができ、3年次の「歴史学研究指導演習Ⅲ」の履修に進むことができます。もしも不合格であった場合、3年次に「歴史学研究指導演習Ⅱ」を再履修することになり、1年間の在学延長が確定します。

●3年次

- (1) 1年次および2年次に提出した「研究報告論文」をもとに、引き続き研究指導を受けます。
- (2) 研究の進展に応じて、「歴史学研究指導演習Ⅲ」のスクーリング(1コマ90分)を合計6コマ受講し、指導教員の面接指導を受けます。以降、11月末までに「博士の学位請求論文」(400字詰原稿用紙250枚以上)の提出を目指して、研究を進展させます。
- (3) 論文中間発表会が開催されます(年2回)。9月には、指導教員の指導を受けて研究成果の発表を行ないます。そして発表会で得た批評を再考し、「博士の学位請求論文」として仕上げていきます。
- (4) 指導教員の承認を得て、11月末までに、「博士の学位請求論文」を事務局に提出し、審査を受けます。
- (5) 2月に審査員3名(主査1名・副査2名)の口頭試問による最終試験を受けます。
- (6) 審査員の論文審査の結果報告に基づき、研究科教授会で「博士の学位」授与の可否が審議、判定されます。その結果「可」と判定されれば、課程修了することができます。なお、同時に「歴史学研究指導演習Ⅲ」も合格となり2単位を修得することができます。「否」と判定された場合は、その判定内容をもとに、指導教員のさらなる指導を受けて研究を再開し、翌年度以降「博士の学位請求論文」を再提出し、課程修了を目指すことになります。

●補足

規定のスクーリング(面接指導)以外に、随時、面接指導やE-mail等を利用した指導を受けることができます。

入学から修了までの基本スケジュール

	学生[授業科目の履修]	学生[博士論文の作成]	指導教員
1 年 次		●3月「研究計画書(案)」提出	
	●指導教員担当の「研究指導演習Ⅰ」1科目を履修 5月～12月にスクーリングを受講(計6回)	●6月「研究計画書」提出 ●9月 論文中間発表会 ●12月 論文中間発表会 ●1月「研究報告論文」提出	●研究指導教員の決定 ●研究計画の立案指導 ●研究計画の了承  ●研究、論文作成指導  ●随時、メディア等を利用して論文作成指導 ●次年度研究計画の指導
	●指導教員担当の「研究指導演習Ⅱ」1科目を履修 12月までにスクーリングを受講(計6回)	●9月 論文中間発表会 ●学会で口頭発表 ●11月 学術雑誌への投稿 ●12月 論文中間発表会 ●1月「研究報告論文」提出	●学会で口頭発表を指導 ●学術雑誌(学会誌を含む)への投稿を指導 ●次年度研究計画の指導 ●博士論文の概要了承
3 年 次	●指導教員担当の「研究指導演習Ⅲ」1科目を履修 「博士論文」提出までにスクーリングを受講(計6回)	●博士論文作成 ●9月 論文中間発表会 ●11月「博士の学位請求論文」(400字×300枚程度)提出	●学内外の研究発表の評価および批判に基づき、研究指導 ●博士の「学位請求論文」提出了承  ●研究科教授会に審査請求

※上記のスケジュールは基本モデルです。特に2年次においては、学外学会での口頭発表や学術雑誌(学会誌を含む)への投稿等、指導教員の指導を受けつつ積極的な取り組みが望まれます。

(補足)○「博士の学位請求論文」の受理を研究科教授会で決定し、その後、審査員(3名)により審査が開始されます。

○2月中旬頃に口頭試問等による最終試験を実施した後、研究科教授会で、審査員の論文審査報告の内容を審議し、「博士の学位」授与の可否を判定します。